

一流校入試合格・学年末試験100点取得を目指そう
- 練習、練習、また練習。練習は不可能を可能にする -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 開倫塾の塾長の林明夫です。
- (2) 入学試験・学年末試験までもうわずかとなりました。
- (3) 自分の未来は、自分で切り開く。
- (4) 開倫塾では、自分の行きたい学校を一流校と呼んでいます。
一流校への合格は自分の力で切り開きましょう。
- (5) 開倫塾では、学校の定期試験で100点満点を目指します。
学年末試験100点を自分の力で実現しましょう。
- (6) そのためにどうするか。「開倫塾の学習の3大理論」をよく「理解」した上で、「定着」(身につけること)させてから十分「応用」しましょう。

2. 一流校合格・学年末試験100点取得のために

- (1) 今、何をやるべきか。
- (2) 試験範囲の内容で「うん、なるほど」と十分「理解」していないところがまだあれば、これはどのような意味なのか、ことばの意味や内容を「うん、なるほど」と十分「理解」することが第一です。教科書や問題集を勉強していてわからないことばや内容があれば、辞書や参考書を引き、意味や内容を確認すること。それでもわからなければ、遠慮なく開倫塾の先生方にどんどん質問して下さいね。
- (3) 一度「うん、なるほど」と十分「理解」した教科書や問題集(特に過去に出題された「過去問集」と「予想問題集」)を自分のものとして身につける、定着させることが第二です。
練習は不可能を可能にする。一度勉強し、十分「理解」した学校の教科書や開倫塾の教材、

問題集(過去問集、出題予想問題集)をスミからスミまで覚え切る。「音読練習」(声を出して読む練習)、「書き取り練習」(楷書で正確に書けるようにする練習)、「計算・問題練習」(計算や問題を見た瞬間にパツ、パツと条件反射で正解が出るまでにする練習)を何十回も何百回も繰り返しましょう。

(4)特に入学試験・定期試験の過去問を5～10年分、5～10回やり直すことで「応用力」(希望校つまり一流校の入試に合格するだけの「得点力」、学年末試験で100点満点が取得できる「得点力」)を身につけるのが第三です。

3. おわりに - 練習、練習、また、練習。練習は不可能を可能にする -

(1)学校や開倫塾の授業で「うん、なるほど」と納得したこと、腑に落ちたこと、つまり「理解」したことは「音読」、「書き取り」、「計算・問題」の「定着のための3大練習」で正確に身につけ、最後に入試や定期試験の「過去問」5～10年分を5～10回以上繰り返し勉強し直して、合格点や100点満点を自己責任、自助努力、自分自身の力で取ってしまいましょう。

(2)なぜ不合格になるのか。成績が伸びないのか。「理解」不足、「定着」不足、「応用力」(得点力)不足のためだけです。入学試験や学校の定期試験に、頭が良い良くないは全く関係ありません。

一度「うん、なるほど」と十分「理解」した内容について、「練習、練習、また、練習」を執念をもって繰り返し「スミからスミまで」覚え切ったかどうかで結果が決まります。

(3)入学試験でも学年末試験でも問題を見た瞬間にパツ、パツと正解が条件反射で出る問題が多いほど、時間的なゆとり・余裕が出ます。その時間を使って、時間をかけて考えさせる問題を解くことができます。

応用問題や難しい問題に挑戦するには「時間」が必要です。その時間を確保するために、「練習、練習、また、練習」で問題を見た瞬間に正解が出せる問題を増やす必要があるのです。

このコツさえ身につけば、偏差値は一気に5～10アップします。学年末試験でも全科目100点が取れます。

(4)練習は不可能を可能にする。

この言葉を信じて、問題用紙が配付される直前まで「練習、練習、また、練習」を実行して下さいね。

では、がんばって下さい。

以上